

情報システム科

令和8年度入学生対象 情報システム科履修系統図

(ITコース)

クラウド・データベース専攻/ネットワーク・セキュリティ専攻/IoT・AI 専攻/xR 専攻/ゲーム専攻

1 年 次	
前 期	後 期

2 年 次	
前 期	後 期

【情報処理知識系科目】

情報システム構築理論 ③			
パソコン演習 (1.5)			
情 報 処 理 ③	言 語 研 究 ③		
情 報 数 理 ③	国家資格対策1 ③	情報技術研究1 ⑥	
修了試験対策 ③	国家資格対策2 ③	情報技術研究2 ③	
		情報系資格試験対策A ②	情報系資格試験対策B ②

【情報処理技術系科目】

プログラミング言語1 ③	プログラミング言語2 (1.5)	ネットワークセキュリティ ③	ネットワーク構築 (1.5)
アルゴリズム1 ③	アルゴリズム2 ③	アルゴリズム3 ③	
アルゴリズム演習1 (1.5)	アルゴリズム演習2 (1.5)	システム開発の基礎 ③	システム構築 (1.5)
	J a v a 1 ③	J a v a 2 (1.5)	オブジェクト指向プログラミング (1.5)
	S Q L 入 門 ③	データベース設計 (1.5)	

【専攻科目】

専攻ゼミナールA (1.5)	専攻ゼミナールC (1.5)
専攻ゼミナールB (1.5)	専攻ゼミナールD (1.5)
	モバイルアプリケーション開発 (1.5)
	Webアプリケーション開発 (1.5)
	エンベデッドプログラミング (1.5)

【総合科目】

		イベントプランニング (1.5)
ヒューマンモラル (1.5)	ヒューマンスキル (1.5)	卒 業 研 究 ③
		インターンシップ2 ②
	インターンシップ1 ②	企 業 フ ォ ー カ ス ①
	PBL 演 習 A (1.5)	PBL 演 習 B (1.5)
		職 場 見 学 ①
		PBL 演 習 C (1.5)

注意:太線は必修科目 ○又は()の数字は単位数

令和8年度入学生対象 情報システム科履修系統図

(ITコース)
情報ビジネス専攻

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期

【情報処理知識系科目】

情報システム構築理論 ③			
パソコン演習 (1.5)			
情 報 処 理 ③			
情 報 数 理 ③	国家資格対策1 ③	情報技術研究1 ⑥	
修了試験対策 ③	国家資格対策2 ③	情報技術研究2 ③	
		情報系資格試験対策A ②	情報系資格試験対策B ②

【情報処理技術系科目】

プログラミング言語1 ③	プログラミング言語2 (1.5)	ネットワークセキュリティ ③
アルゴリズム1 ③	アルゴリズム2 ③	
アルゴリズム演習1 (1.5)	アルゴリズム演習2 (1.5)	
	J a v a 1 ③	
	S Q L 入 門 ③	

【専攻科目】

	専攻ゼミナールA (1.5)	専攻ゼミナールC (1.5)
	専攻ゼミナールB (1.5)	専攻ゼミナールD (1.5)
	ビジネス文書演習 (1.5)	フューション開発演習 (1.5)
	Office演習1 (1.5)	Office演習2 (1.5)
ビ ジ ネ ス 知 識 ③	ビジネス・コミュニケーション論 ③	Office演習3 (1.5)
	簿 記 原 理 ③	応 用 簿 記 ③
		プログラミング演習(1.5)
		プレゼンテーション (1.5)

【総合科目】

		イベントプランニング (1.5)
ヒューマンモラル (1.5)	ヒューマンスキル (1.5)	卒 業 研 究 ③
		インターンシップ2 ②
	インターンシップ1 ②	職 場 見 学 ①
	PBL 演 習 A (1.5)	PBL 演 習 B (1.5)
		PBL 演 習 C (1.5)

注意:太線は必修科目 ○又は()の数字は単位数

令和8年度入学生対象 情報システム科履修系統図
(大学編入コース)

1 年 次		2 年 次	
前 期	後 期	前 期	後 期
【情報処理知識系科目】			
情報システム構築理論 ③			
パソコン演習 (1.5)			
情 報 処 理 ③	言 語 研 究 ③		
情 報 数 理 ③	国家資格対策1 ③	情報技術研究1 ⑥	
修了試験対策 ③	国家資格対策2 ③	情報技術研究2 ③	
		情報系資格試験対策A ②	情報系資格試験対策B ②
【情報処理技術系科目】			
プログラミング言語1 ③	プログラミング言語2 (1.5)	ネットワークセキュリティ ③	ネットワーク構築 (1.5)
アルゴリズム1 ③	アルゴリズム2 ③	アルゴリズム3 ③	
アルゴリズム演習1 (1.5)	アルゴリズム演習2 (1.5)	システム開発の基礎 ③	システム構築 (1.5)
	J a v a 1 ③	J a v a 2 (1.5)	オブジェクト指向プログラミング (1.5)
	S Q L 入 門 ③	データベース設計 (1.5)	
【専攻科目】			
		専攻ゼミナールA (1.5)	専攻ゼミナールC (1.5)
		専攻ゼミナールB (1.5)	専攻ゼミナールD (1.5)
			モバイルアプリケーション開発 (1.5)
			Webアプリケーション開発 (1.5)
			エンベデッドプログラミング (1.5)
【総合科目】			
ヒューマンモラル (1.5)	ヒューマンスキル (1.5)	イベントプランニング (1.5)	
		卒 業 研 究 ③	
		インターンシップ2 ②	
	インターンシップ1 ②	企業フォーカス ①	職 場 見 学 ①
	PBL 演 習 A (1.5)	PBL 演 習 B (1.5)	PBL 演 習 C (1.5)

【大学編入専攻科目】

物 理 A ②

物 理 B ②

オペレーションズ・リサーチ ③

体 育 1 ①

TOEIC英語演習Ⅰ ①

TOEIC英語演習Ⅱ ①

統 計 学 ③

体 育 2 ①

大学専門科目ゼミナールA ③

大学専門科目ゼミナールB ③

大学専門科目ゼミナールC ③

注意:太線は必修科目 ○又は()の数字は単位数

情報システム科 実務経験のある教員による授業科目一覧

科目名	担当者名	単位数	時限数	実務経験と教育内容
卒業研究	引地・佐藤(幸)・ 小川・石塚・佐渡	3	90	株式会社ワンオールシステム、株式会社 LIC との連携により、企業課題の取り組み、また 最終的な成果物に対する評価を得ている。
ネットワーク構築	佐渡 新	1.5	45	IT 開発会社の開発部勤務で会得したネット ワーク開発業務の経験を活かし、実践的なネ ットワーク構築について、演習を交えて講義 する。
システム構築	佐渡 新	1.5	45	IT 開発会社の開発部勤務により会得したシ ステム開発業務の経験を活かし、実践的なシ ステム構築について演習を交えて講義する。
Web アプリケーション開発	大平 拓麻	1.5	45	IT 開発会社の開発部勤務により会得したア プリケーション開発業務の経験を活かし、実 践的なアプリケーション開発について演習を 交えて講義する。
	合計	7.5	225	

情 報 シ ス テ ム 科

各コース

共 通 科 目

教 科 目 名	情報システム構築理論	担当教師名	石塚 哲也
	Information systems development theory	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

コンピュータが動作するために必要な知識として基数変換や稼働率などを学び、情報処理技術を学ぶための基礎を作る。

[履修に必要なこと]

新しい知識を習得しようとする意欲と、問題に直面したときに諦めない意志

[成績評価方法]

随時行われる試験や授業内で指示された提出物により評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	2進数	0と1で表現される数字とその考え方
第 3 回	2のべき乗	2の16乗までの数とその計算方法を覚える
第 4 回	8進数と16進数	2進数と8進数・16進数の関係について学ぶ
第 5 回	2の補数表現	2進数で負の数を表す方法である補数表現を学ぶ
第 6 回	基数変換 1	2進数・10進数・16進数を基準に、n進数への相互変換を学ぶ
第 7 回	基数変換 2	2進数・10進数・16進数を基準に、n進数への相互変換を学ぶ
第 8 回	単位について	情報業界で使われる単位について学ぶ（2のマイナス12乗～2の12乗）
第 9 回	ベン図とフラグ管理	ベン図を利用して、プログラミングに必要なフラグのON/OFFを学ぶ。
第 10 回	ネットワーク基礎	ネットワークについての基礎を学ぶ。
第 11 回	セキュリティ基礎	情報セキュリティについての基礎を学ぶ。
第 12 回	文字コード・リスト構造	コンピュータ内部で利用される文字コードと、メモリ利用等に必要リスト構造の基礎について学ぶ。
第 13 回	稼働率と非稼働率・故障率	機器の稼働度合を計算する稼働率について学ぶ（基礎編）

第 1 4 回	稼働率と非稼働率・故障率 2	機器の稼働度合を計算する稼働率について学ぶ (応用編)
第 1 5 回	期末試験	試験を行う。

教 科 目 名	パソコン演習	担当教師名	手塚 一志
	Personal Computer Practice 1	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

パソコンの基本操作から、仕事で必須の技術となる表計算とデータベースについて、その概要を理解し与えられた基本的な課題を作成できるようにする。またパソコンに興味を持つようなゲーム、音楽や画像処理などを適宜に取り上げること。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

30 時間でマスターoffice2016 実教出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	OS の基本操作 1	マウスの操作 キーボードの操作
第 2 回	OS の基本操作 2	コントロールパネルの操作
第 3 回	OS の基本操作 3	ホルダーの作成 ファイルの複写・移動
第 4 回	プレゼンテーションソフト の基本操作	文字入力 背景画像設定 スライド作成
第 5 回		文字装飾 画像貼付け アニメーション効果
第 6 回	プレゼンテーションソフト での作品作成	企画 準備 構成の基本と要点
第 7 回		効果を出すための要素 発表者の注意
第 8 回	総合課題	レポートの作成と提出
第 9 回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本的な考え方
第 10 回	表計算ソフトの計算	計算式の書き方 計算式の複写と移動
第 11 回	表計算ソフトの書式と罫線	表を見易くするためのテクニック
第 12 回	表計算ソフトの関数	Sum, Min, If, Vlookup, Count などの関数
第 13 回	表計算ソフトのグラフ	表現技法
第 14 回	表計算ソフトの検索機能	データベースとしての操作
第 15 回	総合課題	レポートの作成と提出

教 科 目 名	情報処理	担当教師名	石塚 哲也
	Information Processing	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

「情報化に主体的に対応するための基礎的な知識」と「クライアント環境のパソコンの操作・利用と役割・機能、および情報の利用、情報モラルなどに関わる基礎知識」の習得をする。最終的には情報活用検定3級と2級の合格を目指す。各授業の内容ごとに満点縛りの豆テストを行う。

[履修に必要なこと]

慣れない用語がたくさん出てくるので、きちんと復習すること。
勉強の仕方を学び、周囲と切磋琢磨し能力の向上に励むことが出来る意欲があること。

[成績評価方法]

本番試験の結果・単語模擬試験の結果と努力成果により評価する。

[教科書]

J 検情報活用3級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター
J 検情報活用1級・2級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	この授業を実施する意味や取り組み方、評価方法や単位認定条件等の説明
第 2 回	情報表現と処理手順	情報の収集・伝達の在り方とパソコンの利用
第 3 回	パソコンの基礎	パソコンの代表的な装置と媒体、およびOSの主な役割、データ保存の形式とファイルの管理の仕組みなど
第 4 回	パソコンの基礎	コンピュータの種類、および動作原理、周辺機器の種類と役割
第 5 回	問題解決処理手順	問題を改善するための方法・基礎的なモデル化の方法
第 6 回	パソコンを利用したシステム	オペレーティングシステム、ファイルシステム、パソコン関連機器とインタフェース
第 7 回	ネットワークの利用	情報通信ネットワークの概要、仮想モバイルコンピューティング等
第 8 回	表計算ソフト等を利用した問題解決	表計算、データベース等のアプリケーションソフトの利用

第 9 回	情報ネットワーク社会への 対応	社会におけるコンピュータの利用
第 1 0 回	情報セキュリティ	ネットワーク・コンピュータセキュリティ
第 1 1 回	情報社会とコンピュータ、 情報モラル	身近なコンピュータシステムの役割、情報化の進展における問題点、情報モラル、ネチケットに関する基礎的な知識など
第 1 2 回	情報活用検定 3 級受験	情報検定 情報活用試験 3 級を受験する
第 1 3 回	2 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 2 級の模擬試験対策
第 1 4 回	1 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 1 級の模擬試験対策
第 1 5 回	1 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 1 級の模擬試験対策

教 科 目 名	情報数理	担当教師名	石塚 哲也
	Mathematical	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

情報社会で生活するための実践的能力、ネットワーク環境にあるコンピュータと各種機器の役割・アプリケーションソフトを活用した問題解決技法と知識・情報化社会に関わる諸問題および情報セキュリティに対応できる応用知識を身につけ、最終的に情報検定情報活用試験1級の合格を目指す。

[履修に必要なこと]

慣れない用語がたくさん出てくるので、きちんと復習すること。
勉強の仕方を学び、周囲と切磋琢磨し能力の向上に励むことが出来る意欲があること。

[成績評価方法]

本番試験の結果・単語模擬試験の結果と努力成果により評価する。

[教科書]

J 検情報活用3級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター
J 検情報活用1級・2級完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	情報表現と処理手順	情報の理解と、情報や手段の適切な選択
第 2 回	経営戦略とシステム戦略	企業活動（組織、OR・IE、会計・財務）、知的財産権、セキュリティ、標準化、労働関連
第 3 回	プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント・サービスマネジメント
第 4 回	データ構造と情報表現	コンピュータにおける情報の表現・基礎的なモデル化の方法
第 5 回	情報と情報の利用	データと情報・情報の表現方法、情報の活用や処理手順、収集と発信、管理について
第 6 回	情報機器の基本操作	パソコンや情報機器の取り扱い、基本操作、アプリケーションソフトごとの基本的な利用など
第 7 回	アプリケーションソフトの利用と活用	表計算ソフトの基本的な使い方、プレゼンテーションソフトを用いた、効果的なプレゼンテーション
第 8 回	情報ネットワーク社会への対応	情報ネットワーク社会に関する用語・知識

第 9 回	情報ネットワーク社会への対応	知的財産権や情報資産などに纏わる法律について
第 10 回	インターネットの基礎と利用	インターネットの特徴とプロバイダの役割、プロトコルを理解する、ブラウザと電子メールの利用、利用するために必要な設定など
第 11 回	3 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 3 級の模擬試験対策
第 12 回	2 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 2 級の模擬試験対策
第 13 回	情報活用検定 2 級受験	情報検定 情報活用試験 2 級を受験する
第 14 回	1 級模擬試験	情報検定 情報活用試験 1 級の模擬試験対策
第 15 回	情報活用検定 1 級受験	情報検定 情報活用試験 1 級を受験する

教 科 目 名	修了試験対策	担当教師名	佐渡 新
	Exam completion	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

6月中旬・7月下旬に行われる基本情報技術者試験における午前免除修了試験の対策を行う。修了試験終了後は午後試験へ向けた対策を行う。

[履修に必要なこと]

情報処理技術者試験への合格意欲があり、問題に対してなぜ間違ったのか、どう考えればよかったのか等改善する力を養うための向上心があること。

[成績評価方法]

午前免除修了試験の結果、期末試験によって評価する。

[教科書]

過去問・対策問題を随時用意。

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的を説明する。
第 2 回	模擬試験 1回目	午前免除修了試験に向けた模擬試験を実施。
第 3 回	模擬試験 2回目	午前免除修了試験に向けた模擬試験を実施。
第 4 回	模擬試験 3回目	午前免除修了試験に向けた模擬試験を実施。
第 5 回	模擬試験 4回目	午前免除修了試験に向けた模擬試験を実施。
第 6 回	基数変換	午前免除終了試験で出題される基数変換について、問題読解を通して理解を深める。
第 7 回	シフト演算	午前免除終了試験で出題されるシフト演算について、問題読解を通して理解を深める。
第 8 回	ネットワーク 1回目	基本情報技術者試験 午後試験の必須分野である情報セキュリティの問題読解に必要となるネットワークの基礎知識の学習を行う。
第 9 回	ネットワーク 2回目	
第 10 回	ネットワーク 3回目	
第 11 回	ネットワーク 4回目	
第 12 回	情報セキュリティ 1回目	基本情報技術者試験 午後試験の必須分野である情報セキュリティについて、過去問・対策問題を通して理解を深める。
第 13 回	情報セキュリティ 2回目	
第 14 回	情報セキュリティ 3回目	
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	プログラミング言語 1	担当教師名	小川 昌宏
	Programming Language 1	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・90時間

[授業の目的・方針]

基本情報技術者試験に合格すべく授業を行う。本講座では午後のポイントである CASL について講義をする。

[履修に必要なこと]

試験まで持続できる強い意志が必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果を考慮して評価する。

[教科書]

基数変換のテキスト オリジナル
CASL のテキスト オリジナル
基本問題プリント

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	基数変換 1	2進数と10進数
第 2 回	基数変換 2	2進数と16進数
第 3 回	基数変換 3	負の表現 (2の補数表現)
第 4 回	基数変換 4	2進数と文字コード
第 5 回	CASL 基礎 1	CASL 概要 CASL の命令
第 6 回	CASL 基礎 2	エリア定義 命令分岐
第 7 回	CASL 基礎 3	繰り返し制御構造
第 8 回	基本問題 1	大小比較 数値文字コード変換 乗算 除算 配列データの総和・最大・最小 データ追加 偶数データ取出し 奇数データカウント
第 9 回	基本問題 2	2進数出力 8進数出力 10進数出力 16進数出力 秒データ変換 金種計算 2進入力 10進入力 16進入力
第 10 回	基本問題 3	文字数カウント 文字列コピー 文字列比較 小文字大文字変換 文字列連結 文字検索
第 11 回	基本問題 4	ビットカウント・リセット 偶数パリティ 倍語長算術右シフト データ圧縮

第 1 2 回	基本問題 5	B C Dコード 度数分布 グラフ パラメータテーブル マスクパターン
第 1 3 回	基本問題 6	チェックディジット ゼロサプレス 成績順位 マージ 多分岐 ゼロクリア バイナリーサーチ
第 1 4 回	基本問題 7	リスト 小数第 1 位の商 単位行列 ビット乗算 ソート ネットワークアドレスとホストアドレス B C Dコードの加算 解凍
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム 1	担当教師名	引地 政征
	Algorithm 1	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

プログラム作成の基本的な考え方を、流れ図や擬似言語を作成することにより修得する。
基本的なプログラムの定石を学び、各種プログラムへの応用ができることを目標とする。

[履修に必要なこと]

プログラムの読解に必要なトレースを日頃から丁寧に行うことが必要になる。

[成績評価方法]

確認テスト、提出物、期末試験の結果等を総合的に考慮して評価する。

[教科書]

アルゴリズムとデータ構造 ウイネット

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的を説明する。
第 2 回	変数とデータ型	変数の役割とデータ型の基本概念を理解し、データの管理と操作方法を習得する。
第 3 回	順次処理	命令を順に実行するプログラムの基本構造を理解し、単純な処理の実装方法を学ぶ。
第 4 回	条件分岐	条件によって異なる処理を実行する制御構文の使い方を理解し、効果的に実装する。
第 5 回	配列と繰り返し処理①	配列の基礎と繰り返し処理の基本的な使用方法を理解し、データ管理を習得する。
第 6 回		
第 7 回	配列と繰り返し処理②	多次元配列の活用とネストされたループ処理の応用方法を理解し、効果的に実装する。
第 8 回		
第 9 回	疑似言語表現	基本情報技術者試験で扱う疑似コードを用いてアルゴリズム設計の基本的な表現方法と手順を理解し、習得する。
第 10 回	手続きと関数	コードの再利用性を高めるために手続きと関数の使用方法を理解し、実践的に活用する。
第 11 回	合計と平均のアルゴリズム	数値データの合計および平均を求めるアルゴリズムの作成方法と注意点を学ぶ。

第 1 2 回	べき乗のアルゴリズム	べき乗の計算方法と効率的なアルゴリズムの作成方法を理解し、習得する。
第 1 3 回	剰余計算のアルゴリズム	剰余計算の基本概念と偶数・奇数判定などの実用的な応用方法を理解する。
第 1 4 回	再帰呼び出し	再帰呼び出しの基本原則と代表的なアルゴリズムを理解し、実装の注意点を学ぶ。
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム演習 1	担当教師名	引地 政征
	Algorithm Practice 1	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

アルゴリズム 1 と連携し、フローチャート・疑似言語シミュレータを用いてアルゴリズムの理解を深めていく。

[履修に必要なこと]

プログラムの読解に必要なトレースを日頃から丁寧に行うことが必要になる。

[成績評価方法]

課題提出等を考慮して評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的を説明する。
第 2 回	変数とデータ型	変数の宣言、代入、データ型の違いを演習形式で理解し、四則演算や文字列操作を実装する。
第 3 回	順次処理	シンプルなアルゴリズムを作成し、順次処理の基本構造を体験し、入力値の取得と出力処理を実装する。
第 4 回	条件分岐	基本的な配列操作やループ処理の演習問題を解き、数列の表示や要素の合計計算を行う。
第 5 回	配列と繰り返し処理①	シンプルなアルゴリズムを作成し、順次処理の基本構造を体験し、入力値の取得と出力処理を実装する。
第 6 回		
第 7 回	配列と繰り返し処理②	基本的な配列操作やループ処理の演習問題を解き、数列の表示や要素の合計計算を行う。
第 8 回		
第 9 回	疑似言語表現	疑似コードを用いたアルゴリズム設計の演習を行い、フローチャート作成や簡易的な探索アルゴリズムの表現を学ぶ。
第 10 回	手続きと関数	関数の作成や呼び出しを演習形式で実践し、最大公約数の計算や温度変換関数を作成する。

第 1 1 回	合計と平均のアルゴリズム	数値データの合計と平均を求めるプログラムを実装し、複数科目の成績集計の平均計算を行う。
第 1 2 回	べき乗のアルゴリズム	べき乗計算のアルゴリズムを実装し、指数計算や累乗計算の効率的な手法を体験する。
第 1 3 回	剰余計算のアルゴリズム	剰余計算の演習問題を通じて、余りの計算やうるう年判定、カレンダー計算の応用例を理解する。
第 1 4 回	再帰呼び出し	再帰アルゴリズムの演習を行い、階乗計算の生成を実装し、理解を深めながら適切な活用方法を学ぶ。
第 1 5 回	総合演習	これまでの知識を生かして自由な課題を作成する

教 科 目 名	ヒューマンモラル	担当教師名	小川 昌宏
	Human Moral	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

社会に出た時に重要である、正しい判断力と課題解決力の向上を目指します。

[履修に必要なこと]

真摯に取り組み、積極的に輪に入り話し合おうとする姿勢。

[成績評価方法]

課題の結果・レポートの結果等により評価する。

[教科書]

これだけは知っておきたい！面接対策&ビジネスマナー ウイネット
プリント配布

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	各回のテーマに沿った 講話とワークショップ	何のために学ぶのか
第 3 回		「感謝」について考える
第 4 回		「道徳」について考える
第 5 回		昔ばなしから学ぶ
第 6 回		ナショナリズムとグローバリズム
第 7 回		もっと日本を知ろう
第 8 回		やる気スイッチの入れ方
第 9 回		思うは招く
第 10 回		企業は人なり
第 11 回	就職作文の書き方 800 文字	穴埋め方式で構成を考案し、5W1Hで肉付けしていく方法を学びます。
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	就職作文の書き方 400 文字	800 文字の内容をそのままに 400 文字に濃縮する方法を学びます。

教 科 目 名	言語研究	担当教師名	石塚 哲也
	Language study	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

2年次の各専攻で必要となる基礎的なプログラミング言語・技術・知識の習得を目標とする。主な内容は各専攻にて異なる。

[履修に必要なこと]

1年次前期で勉強してきた内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート・発表内容等で評価する。各専攻により評価方法は異なる。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明を各専攻ごとに行う。
第 2 回	専攻学習	2年次の卒業研究に参加し、各専攻で必要となる知識・技術について理解する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回	技術調査	各専攻で必要となる技術について調査し、レポートにまとめる。
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回	演習	調査した技術について、演習を行い、理解を深めていく。
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	発表準備	発表用のスライド作成を行う。
第 15 回	発表	技術調査した内容と演習内容について発表を行う。

教 科 目 名	国家資格対策 1	担当教師名	佐渡 新
	National Government Examination 1	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

国家資格である基本情報技術者試験 午後問題を題材に、I T技術者になることを目的とする。授業方針として、グループワークをベースとし、グループでのディスカッション、メンバーへの協力、グループへの貢献を常に意識して I T 技術者を目指す。

[履修に必要なこと]

情報処理技術者試験への合格意欲があり、問題に対してなぜ間違ったのか、どう考えればよかったのか等改善する力を養うための向上心があること。

[成績評価方法]

期末試験と提出課題によって評価する。

[教科書]

過去問・対策問題を随時用意。

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的を説明する。
第 2 回	S Q L ①	S Q L の基本操作である選択、グループ化、結合についてグループワークを通して学習する。
第 3 回	S Q L ②	S Q L の基本操作である H A V I N G、I N、E X I S T S についてグループワークを通して学習する。
第 4 回	正規化	R D B M S を活用するにあたって必要となる正規化についてグループワークを通して学習する。
第 5 回	P E R T ・クリティカルパス	プロジェクトマネジメントで利用される P E R T 図の作成方法、クリティカルパスの導出方法についてグループワークを通して学習する。
第 6 回		
第 7 回	浮動小数点数	コンピュータの数値表現として利用されている浮動小数点数についてグループワークを通して学習する。
第 8 回		
第 9 回	コンパイラ・インタプリタ	プログラミング言語の方式として代表的なコンパイラ、インタプリタについてグループワークを通して学習する。
第 1 0 回		

第 1 1 回	プロセス	プログラムが実行された形式であるプロセスについてグループワークを通して学習する。
第 1 2 回		
第 1 3 回	UML	プログラムもモデリング技法であるUMLについて、グループワークを通して学習する。
第 1 4 回		
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	国家資格対策 2	担当教師名	小川 昌宏
	National Government Examination 2	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

国家試験である情報技術者試験の午後分野に特化し、合格水準まで知識を引き伸ばすことを目的とする。また、過去問題を分野別を実施し、各分野の理解度を深める。

[履修に必要なこと]

情報技術者試験への受験意欲がある。

[成績評価方法]

模擬試験結果等で評価する。

[教科書]

プリントを適宜配布

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の位置づけ・受験攻略法
第 2 回	ネットワーク	IP アドレスの管理
第 3 回	ネットワーク	サブネットマスクなど
第 4 回	セキュリティ	共通鍵暗号化方式、公開鍵暗号化方式
第 5 回	セキュリティ	盗聴、改ざん、なりすまし、電子証明書
第 6 回	ハードウェア	浮動小数点（符号部、指数部、仮数部）
第 7 回	ハードウェア	A/D 変換（標準化、量子化、符号化）
第 8 回	ソフトウェア設計	オブジェクト図、クラス図
第 9 回	データベース	テーブル構成、正規化など
第 1 0 回	データベース	SQL 文の基礎（SELECT 文）
第 1 1 回	データベース	SQL 文の応用（テーブルの結合、抽出）
第 1 2 回	データベース	SQL 文の応用（INSERT, UPDATE, DELETE）
第 1 3 回	アルゴリズム	数式処理
第 1 4 回	アルゴリズム	配列処理
第 1 5 回	アルゴリズム	メソッドの戻り値と引数

教 科 目 名	プログラミング言語 2	担当教師名	小川 昌宏
	Programming Language 2	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

基本情報技術者試験に合格すべく授業を行う。本講座では午後のポイントである CASL について講義をする。

[履修に必要なこと]

試験まで持続できる強い意志が必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果を考慮して評価する。

[教科書]

[参考書]

中級問題プリント

[実務経験・教育内容]

* 実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	中級問題 1	右詰め 最大最小
第 2 回	中級問題 2	データカウント 絶対値の総和
第 3 回	中級問題 3	データ圧縮 偶数パリティ
第 4 回	中級問題 4	パリティビット付加 パリティチェック
第 5 回	中級問題 5	ビットカウント パリティビットを求める
第 6 回	中級問題 6	文字コードへのパリティ付加 2進文字入力
第 7 回	中級問題 7	1 0 進文字→2 進 1 6 進文字→2 進
第 8 回	中級問題 8	配列内ビットカウント 2進文字→2 進
第 9 回	中級問題 9	1 0 進文字列→2 進① 2 進→2 進文字列
第 1 0 回	中級問題 1 0	1 0 進文字列→2 進② 年月日圧縮
第 1 1 回	中級問題 1 1	利用者識別コードチェック
第 1 2 回	まとめ 1	総合問題 1
第 1 3 回	まとめ 2	総合問題 2
第 1 4 回	まとめ 3	総合問題 3
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム 2	担当教師名	引地 政征
	Algorithm 2	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

アルゴリズム 1 から発展したアルゴリズムについて、トレースと擬似言語シミュレータによるプログラム作成を通して修得する。

アルゴリズム 1 から継続してプログラムの定石を学び、各種プログラムへの応用ができることを目標とする。

[履修に必要なこと]

前後の関係や積み重ねが大事であるので復習をきちんとしておくこと。

[成績評価方法]

確認テスト、提出物、期末試験の結果等を総合的に考慮して評価する。

[教科書]

アルゴリズムとデータ構造 ウイネット

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	線形探索	線形探索アルゴリズムの基本原理と手順を学び、データの探索手法を理解します。
第 2 回	二分探索	二分探索アルゴリズムの効率的な探索手法と前提条件を学び、実装方法を理解します。
第 3 回	ハッシュテーブル	ハッシュテーブルのデータ構造とハッシュ関数の仕組みを学び、衝突解決法を理解します。
第 4 回	バブルソート	バブルソートのアルゴリズム原理とソート手順を学び、計算量や他のソート手法との比較を行います。
第 5 回	選択ソート	選択ソートのアルゴリズム原理と実装方法を学び、計算量や他のソート手法との違いを理解します。
第 6 回	挿入ソート	挿入ソートの基本的な動作原理を学び、リストの並べ替え手法としての応用を理解します。
第 7 回	スタック	スタックの LIFO 構造と基本操作を学び、データ管理手法としての利用例を理解します。
第 8 回	キュー	キューの FIFO 構造と基本操作を学び、データ管理の流れや実装方法を理解します。

第 9 回	連結リスト	連結リストの基本構造とノードの管理方法を学び、探索・追加・削除の操作を理解します。
第 10 回	木構造	木構造の基本概念と二分探索木の操作を学び、データの階層的管理を理解します。
第 11 回	マージソート	マージソートの分割統治法の原理を学び、データの分割と統合による効率的なソートを理解します。
第 12 回		
第 13 回	クイックソート	クイックソートの分割統治法の原理とピボット選択の重要性を学び、効率的なソート方法を理解します。
第 14 回		
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム演習 2	担当教師名	引地 政征
	Algorithm Practice 2	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

本授業では、各種アルゴリズムの実装を通じて基本原理の理解を深め、計算量や性能評価を視覚的に確認します。データ構造の特性やアルゴリズムの適用範囲を比較・検証し、効果的なアルゴリズム選択のための基礎力を養います。

[履修に必要なこと]

アルゴリズム 1、アルゴリズム演習 1 の内容を理解していること。

[成績評価方法]

成果物の提出等を総合的に評価する

[教科書]

アルゴリズムとデータ構造 ウイネット

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	線形探索	線形探索のアルゴリズムを実装し、複数のデータセットで性能評価を行います。
第 2 回	二分探索	二分探索のアルゴリズムを実装し、データの整列状況に応じた性能比較を行います。
第 3 回	ハッシュテーブル	ハッシュテーブルの基本操作を実装し、衝突解決法の違いによる性能差を理解します。
第 4 回	バブルソート	バブルソートのアルゴリズムを実装し、計算量の違いを視覚的に確認します。
第 5 回	選択ソート	選択ソートのアルゴリズムを実装し、他のソート手法との計算量の比較を行います。
第 6 回	挿入ソート	挿入ソートのアルゴリズムを実装し、データの初期並び順が性能に与える影響を調査します。
第 7 回	スタック	スタックの基本操作をプログラムで実装し、 LIFO 構造の活用事例を理解します。
第 8 回	キュー	キューの基本操作をプログラムで実装し、 FIFO 構造の応用を学びます。
第 9 回	連結リスト	連結リストのノード操作をプログラムで実装し、データ管理の柔軟性を体験します。

第 1 0 回	木構造	木構造の基本操作を実装し、二分探索木でのデータ管理の効率性を理解します。
第 1 1 回	マージソート	マージソートの分割統治法をプログラムで実装し、データ分割と統合の流れを理解します。
第 1 2 回		
第 1 3 回	クイックソート	クイックソートのピボット選択方法を複数実装し、最適化の効果を確認します。
第 1 4 回		
第 1 5 回	総合課題	総合課題

教 科 目 名	J a v a 1	担当教師名	佐藤 幸夫
	Java 1	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・90時間

[授業の目的・方針]

Java プログラムの作成の基本を学ぶ。

[履修に必要なこと]

Java 言語を学ぼうする意志があり、努力が出来ること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしいJava 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Java の概要、使い方	Java コンパイラのしくみとプログラムの実行
第 2 回	Java の基本	画面への出力、文字と数値
第 3 回	変数	変数の仕組み、変数の型
第 4 回	変数	キーボードからの入力
第 5 回	式と演算子	式の仕組み、いろいろな演算子
第 6 回	式と演算子	演算子の優先順位、型変換
第 7 回	条件分岐	関係演算子と条件の仕組み
第 8 回	条件分岐	if 文の基本、if ～ else 文の基本
第 9 回	条件分岐	switch 文の基本
第 10 回	条件分岐	論理演算子を利用した複雑な条件分岐
第 11 回	繰り返し	for 文の基本
第 12 回	繰り返し	while 文の基本・do～while 文の基本
第 13 回	繰り返し	ネストした繰り返し
第 14 回	繰り返し	continue、break を使用した繰り返し制御
第 15 回	配列	配列の宣言

教 科 目 名	S Q L 入 門	担当教師名	大平 拓麻
	Structured Query Language Practice	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

データベースを利用する上で避けて通ることの出来ない SQL についての知識を学ぶ。
この授業では、要求されたデータ操作に対して適切な SQL を記述出来る能力を身に付けることを目標とする。

[履修に必要なこと]

今まで学んだデータベースについての知識を利用できること。
各命令を理解し、データベースを操作するという努力をすること。

[成績評価方法]

期末試験の結果、課題の提出を考慮して評価する。

[教科書]

やさしいSQL入門 演習問題で学ぶデータベース操作法 カットシステム 手塚忠則

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス・環境構築	この授業の進め方、学ぶ内容、評価方法、環境構築、データの初期化の方法、テーブル定義書の見方
第 2 回	SELECT 文の使い方①	テーブルからデータを取得する仕方を学ぶ
第 3 回	WHERE 句の使い方①	WHERE 句を使い、取得する条件を組み立てる
第 4 回	WHERE 句の使い方②	BETWEEN や LIKE、IN の使い方を学ぶ
第 5 回	集約関数の使い方	集約関数の使い方、GROUP BY の使い方を学ぶ
第 6 回	テーブルの結合①	複数テーブルを内部結合する仕方を学ぶ
第 7 回	テーブルの結合②	複数テーブルを外部結合する仕方を学ぶ
第 8 回	副問い合わせ	IN・EXISTS を使った副問い合わせについて学ぶ
第 9 回	SELECT 文の使い方②	列名への別名の付け方、VIEW の使い方
第 10 回	データの登録・更新・削除	INSERT・UPDATE・DELETE 文の使い方を学ぶ
第 11 回	テーブル操作①	テーブルの作成の仕方を理解する
第 12 回	テーブル操作②	項目を追加・変更・削除をする仕方を学ぶ
第 13 回	テーブル操作③	主キーの設定、テーブルの削除の仕方を学ぶ
第 14 回	実践的なデータベース	試験問題に出題されているデータベースの問題を使い、テーブルの作成やデータの取得を行う
第 15 回	期末テスト	期末テスト

教 科 目 名	ヒューマンスキル	担当教師名	小川 昌宏
	Human Skill	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

就職活動に必要な書類作成能力や所作などの修得を通して、社会に出た時に重要である、社会性・人間性の向上を目指します。

[履修に必要なこと]

元氣な挨拶と、積極的に輪に入り話そうとする姿勢。

[成績評価方法]

課題の結果・レポートの結果等により評価する。

[教科書]

プリント配布

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	就職作文の書き方 400 文字	800 文字の内容をそのままに 400 文字に濃縮する方法を学びます。
第 3 回	就職作文の書き方 200 文字	800 文字の内容をそのままに 200 文字に濃縮する方法を学びます。
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回	履歴書の書き方	氏名、連絡先、学歴、職歴をまとめます。
第 7 回		資格、特技、自己PRをまとめます。
第 8 回		志望動機をまとめます。
第 9 回	御礼状の書き方	御礼状の書き方を学びます。
第 10 回	送付状の書き方	送付状の書き方を学びます。
第 11 回	封筒宛名の書き方	封筒の宛名の書き方を学びます。
第 12 回	入退出の方法	入退室の方法を演習で学びます。
第 13 回	面接対策	面接試験に於ける一連の所作を学びます。
第 14 回	決め台詞を考える	面接で軸となる自身の考えをまとめます。
第 15 回	まとめ	全体を通して振り返りを実施します。

教 科 目 名	インターンシップ 1	担当教師名	石塚 哲也
	Internship 1	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	2単位・60時間

[授業の目的・方針]

実際の職場での業務を行うことで、実際の職場の実体験として学習する。職場での業務と日頃学んで来た知識の違いを体験し、学んできた内容をどのように生かして行くのかを応用する力を鍛えることを目的とする。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

受け入れ先の評価・レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習
第 4 回	インターンシップ	職場実習
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備
第 15 回	報告会	報告会

教 科 目 名	PBL 演習 A	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡 大平
	Project Based Learning Practice A	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

企業連携やコンテスト等を PBL 形式で取り組み、培ってきた IT の知識・技術の向上を目指す。

[履修に必要なこと]

いままで勉強してきたファイル類・実習結果等を、必要に応じて利用できるようなっていること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	導入・基本計画	企業連携・コンテストの概要説明、目標設定、チーム編成、全体スケジュールの作成
第 2 回	基礎知識習得	コンテストに関する基礎知識の習得を行う
第 3 回	開発環境整備	開発ツールのインストール、初期設定を行う
第 4 回	外部設計	企業連携・コンテストの要求仕様を整理し、システム全体の外部設計を行う
第 5 回		
第 6 回	内部設計	外部設計を基にモジュール設計やインターフェース等の内部設計を行う
第 7 回		
第 8 回	プログラミング	内部設計を基に各モジュールのプログラミングを行う
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回	デバッグ・結合試験	動作確認を行い、問題点や課題を洗い出し、フィードバックを行う
第 12 回		
第 13 回	最終調整	発表・リリース前の最終調整を行う
第 14 回	発表・リリース	成果物の発表、リリースを行う
第 15 回	振り返り	発表・リリースを振り返り、成功点と課題点を洗い出し、今後の改善策を提案する

教 科 目 名	情報技術研究 1	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Information Technology Research 1	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	6単位・90時間

[授業の目的・方針]

専攻毎に卒業研究に向けた実習・技術調査を行い、知識・技術について理解を深めることを目的に学習する。

[履修に必要なこと]

1 年次後期の言語研究の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	アクティブラーニング	専攻毎に卒業研究に必要な技術・知識の調査を行い、レポートを作成する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教 科 目 名	情報技術研究 2	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Information Technology Research 2	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

情報技術研究 1 と並行して、専攻毎に卒業研究に向けた実習・技術調査を行い、知識・技術について理解を深めることを目的に学習する。

[履修に必要なこと]

1 年次後期の言語研究の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	アクティブラーニング	専攻毎に卒業研究に必要な技術・知識の調査を行い、レポートを作成する。
第 3 回		
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回		
第 15 回		

教 科 目 名	情報系資格試験対策A	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡 大平
	Information System Qualification Exam Preparation A	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

情報系ベンダー資格などの各種試験対策を行う。

[履修に必要なこと]

1年次科目の内容を理解できていること。

[成績評価方法]

模擬試験結果、本番試験結果等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	資格試験の概要を説明し、受験資格と目標を決定
第 2 回	学習計画	スケジュール作成と必要な教材・リソースを選定
第 3 回	基礎学習	基礎問題を解き、解説と基礎知識の確認を行う
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回	模擬試験 1	基礎問題をベースとした模擬試験を実施
第 8 回	模擬試験 2	
第 9 回	応用学習	応用問題を解き、解説と応用知識の確認を行う
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回	模擬試験 3	応用問題をベースとした模擬試験を実施
第 1 4 回	模擬試験 4	
第 1 5 回	本番試験	本番試験

教 科 目 名	ネットワークセキュリティ	担当教師名	佐渡 新
	Network Security	方法・必選	講義・必修
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

現代社会においてはネットワークとセキュリティについての知識を持つことの重要性が増している。ネットワークの仕組みの技術面から人的なセキュリティモラルも含めて身に付けることが本科目の目的である。

[履修に必要なこと]

技術面では最低限2進数の知識は必要である。

[成績評価方法]

期末試験の結果に応じて評価する。

[教科書]

TCP/IPの絵本 第2版 ネットワークを学ぶ新しい9つの扉

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的を説明する。
第 2 回	情報セキュリティ	情報セキュリティの必要性和定義
第 3 回		情報セキュリティの脅威と対策
第 4 回		情報セキュリティの要素技術
第 5 回		ネットワークの脆弱性とリスク
第 6 回		情報セキュリティ対策におけるネットワーク機器
第 7 回		ネットワークセキュリティを構成する要素技術
第 8 回		譲歩セキュリティに関する攻撃手口の擬似体験
第 9 回	インターネットの仕組み	T C P / I P の概要、通信サービスとプロトコル
第 1 0 回		アプリケーション層
第 1 1 回		トランスポート層
第 1 2 回		ネットワーク層
第 1 3 回		データリンク層・物理層
第 1 4 回		ルーティング
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	アルゴリズム 3	担当教師名	佐渡 新
	Algorithm 3	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

国家試験に出題される様々なアルゴリズムとデータ構造について学習する。データの整理と探索・再帰・データ構造等、コンピュータ応用分野で幅広く使われるアルゴリズムをトレース、プログラミングにより学習する。

[履修に必要なこと]

前後の関係や積み重ねが大事であるので復習をきちんとしておくこと。

[成績評価方法]

レポート提出等を考慮して評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	文字列照合 (BM法)	BM (ボーヤムア) 法と単純探索の性能の違い
第 2 回	文字列圧縮 (ランレングス法)	圧縮率の高くなる場合と圧縮効果が得られない場合
第 3 回	2分探索木の操作	挿入削除における高速性について
第 4 回	ハッシュ法 (オープンアドレッシング法)	探索時間の評価
第 5 回	マージソート	高速な安定ソートであるが、作業領域について考察
第 6 回	クイックソート	計算量やソートされる過程について
第 7 回	順位づけ配列	度数を利用する順位づけの仕組み
第 8 回	配列の要素を更新するプログラム	実行時間を改善した配列要素の更新
第 9 回	実数計算における誤差	誤差を少なくするための計算方法
第 10 回	ISBNコードチェック	計算式の規則性を利用したアルゴリズム
第 11 回	$1/n$ を正確に求める	手計算の過程からアルゴリズムに変換する
第 12 回	逆ポーランド表記からの計算	スタックを利用したアルゴリズム
第 13 回	式の値を計算する (BNF 記法)	数式の解析アルゴリズム

第 1 4 回	文字列をバイナリ形式に変換	処理の規則性を見つける
第 1 5 回	素数を求める手順	代表的な数学的な手法を実装する

教 科 目 名	システム開発の基礎	担当教師名	石塚 哲也
	System Development Foundation	方法・必選	講義・選択
科・年・期	IT スペシャリスト科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目標・方針]

昨今のシステム設計に必要とされているUMLについて学ぶ。

[履修に必要なこと]

オブジェクト指向について、さらに深く学ぶ意欲がある事。

システム設計について、国家試験等で学んできた内容を理解している事。

[成績評価方法]

期末試験の結果にて評価する。

[教科書]

かんたんUML入門 技術評論社発行

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、学ぶ必要性について、評価方法や昨今のシステム設計についての説明
第 2 回	オブジェクト指向とUML	オブジェクト指向の基本形から考え方、様々な表記図とUMLの基本について学ぶ。
第 3 回	開発プロセス	ウォーターフォール型、スパイラル型、反復型などの開発プロセスについて学ぶ。
第 4 回	ユースケース図	システムをどう使うか、利用者視点で考えたものを図にするユースケース図について学ぶ。
第 5 回	オブジェクト図	オブジェクト指向の基幹であるオブジェクトがどのように連携しているかを表す図について学ぶ。
第 6 回	クラス図	クラスとオブジェクトによる「型」と「実体」の関係を表す図について学ぶ。
第 7 回	シーケンス図	システム構成の相互作用について、時間軸に沿った形で表すシーケンス図について学ぶ。
第 8 回	コミュニケーション図	システム構成の相互作用について、つながりを強調して書くことに重点を置いたコミュニケーション図について学ぶ。
第 9 回	ステートマシン図	状態と遷移が重要なシステムにとって強力な道具となるステートマシン図について学ぶ。
第 10 回	アクティビティ図	UMLにおいて制御フローを表現する図であるア

		クティビティ図について学ぶ。
第 1 1 回	パッケージ図	システムの構造を俯瞰的に可視化するパッケージ図について学ぶ。
第 1 2 回	サブの図	コンポーネント図、配置図、合成構造図、タイミング図、相互作用概要図について学ぶ。
第 1 3 回	実践例 1	実際のビジネス系システムをケーススタディとして学ぶ。
第 1 4 回	実践例 2	実際の組み込み系システムをケーススタディとして学ぶ。
第 1 5 回	期末試験	期末試験を行う。

教 科 目 名	J a v a 2	担当教師名	佐藤 幸夫
	Java 2	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

Java1 で学んだことを活かし、より応用的な Java プログラムの作成について学ぶ。

[履修に必要なこと]

Java1 の内容を理解していること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしい Java 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	配列	1 次元配列、2 次元配列の宣言と利用
第 2 回	配列	多次元配列の宣言と利用
第 3 回	配列	配列の応用①
第 4 回	クラスの基本	クラスの宣言とオブジェクトの作成①
第 5 回	クラスの基本	クラスの宣言とオブジェクトの作成②
第 6 回	クラスの基本	クラスを利用するプログラム
第 7 回	クラスの基本	複数のクラスファイルの作成
第 8 回	クラスの基本	メソッドの基本
第 9 回	クラスの基本	引数を持つメソッド
第 1 0 回	クラスの基本	メソッドの戻り値
第 1 1 回	クラスの機能	メンバとアクセス制限
第 1 2 回	クラスの機能	メソッドのオーバーロード
第 1 3 回	クラスの機能	コンストラクタ
第 1 4 回	クラスの機能	コンストラクタのオーバーロード
第 1 5 回	クラスの機能	クラス変数、クラスメソッド

教 科 目 名	データベース設計	担当教師名	石塚 哲也
	Database Design	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

SQL 入門で学んだデータベースの基本を生かし、実際の業務システム内で使用されるデータベースの設計を行う。

[履修に必要なこと]

今まで学んだデータベースについての知識を利用できること。
プロジェクト単位で活動するため、積極的にコミュニケーションを取ろうとすること。
設計したシステムを発表するプレゼンテーション制作・発表に積極的に参加すること。

[成績評価方法]

作成したデータベースの内容・データベース設計・プレゼン内容で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス、環境構築	授業の概要説明・グループ分け・Oracle ユーザーの作成など
第 2 回	環境構築	授業の概要説明・グループ分け・Oracle ユーザーの作成など
第 3 回	環境構築	授業の概要説明・グループ分け・Oracle ユーザーの作成など
第 4 回	電話帳システム データベース設計 1	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 5 回	電話帳システム データベース設計 2	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 6 回	電話帳システム データベース設計 3	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 7 回	電話帳システム データベース設計 4	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 8 回	電話帳システム データベース設計 5	グループごとに携帯電話の電話帳システムを分析し、データ格納に必要なテーブル設計を行う。
第 9 回	電話帳システム データベース設計 6	設計発表会・評価（中間試験扱い）

第 1 0 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 1	グループごとにソーシャルゲームを介したゲームを仮設計し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第 1 1 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 2	グループごとにソーシャルゲームを介したゲームを仮設計し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第 1 2 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 3	グループごとにソーシャルゲームを介したゲームを仮設計し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第 1 3 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 4	グループごとにソーシャルゲームを介したゲームを仮設計し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第 1 4 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 5	グループごとにソーシャルゲームを介したゲームを仮設計し、その際に必要なデータベースの設計を行う。
第 1 5 回	データベース設計（ネットワークを介したソーシャルゲーム） 6	設計発表会・評価（期末試験扱い）

教 科 目 名	専攻ゼミナールA	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar A	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

専攻ゼミナール B と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

1 年次後期の言語研究の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 1 0 回	ゼミ 9 回目	
第 1 1 回	ゼミ 1 0 回目	
第 1 2 回	ゼミ 1 1 回目	
第 1 3 回	ゼミ 1 2 回目	
第 1 4 回	ゼミ 1 3 回目	
第 1 5 回	ゼミ 1 4 回目	

教 科 目 名	専攻ゼミナールB	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar B	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5単位・45時間

[授業の目的・方針]

専攻ゼミナールAと連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

1年次後期の言語研究の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 1 0 回	ゼミ 9 回目	
第 1 1 回	ゼミ 1 0 回目	
第 1 2 回	ゼミ 1 1 回目	
第 1 3 回	ゼミ 1 2 回目	
第 1 4 回	ゼミ 1 3 回目	
第 1 5 回	ゼミ 1 4 回目	

教 科 目 名	企業フォーカス	担当教師名	石塚 哲也
	Companies focus	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

企業を研究するとともに、企業からプロをお招きし講演していただくことで、社会人としての広い視野と価値観を醸成する。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	企業研究 1	講演企業の概要について調査します
第 3 回	プロ講演 1	プロをお招きして講演していただく
第 4 回	企業研究 2	講演企業の概要について調査します
第 5 回	プロ講演 2	プロをお招きして講演していただく
第 6 回	企業研究 3	講演企業の概要について調査します
第 7 回	プロ講演 3	プロをお招きして講演していただく
第 8 回	企業研究 4	講演企業の概要について調査します
第 9 回	プロ講演 4	プロをお招きして講演していただく
第 10 回	企業研究 5	講演企業の概要について調査します
第 11 回	プロ講演 5	プロをお招きして講演していただく
第 12 回	企業研究 6	講演企業の概要について調査します
第 13 回	プロ講演 6	プロをお招きして講演していただく
第 14 回	報告資料作成	報告の準備を行います
第 15 回	報告資料提出	報告資料を提出します

教 科 目 名	PBL 演習 B	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡 大平
	Project Based Learning Practice B	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

企業連携やコンテスト等を PBL 形式で取り組み、培ってきた IT の知識・技術の向上を目指す。

[履修に必要なこと]

いままで勉強してきたファイル類・実習結果等を、必要に応じて利用できるようなっていること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	導入・基本計画	企業連携・コンテストの概要説明、目標設定、チーム編成、全体スケジュールの作成
第 2 回	基礎知識習得	コンテストに関する基礎知識の習得を行う
第 3 回	開発環境整備	開発ツールのインストール、初期設定を行う
第 4 回	外部設計	企業連携・コンテストの要求仕様を整理し、システム全体の外部設計を行う
第 5 回		
第 6 回	内部設計	外部設計を基にモジュール設計やインターフェース等の内部設計を行う
第 7 回		
第 8 回	プログラミング	内部設計を基に各モジュールのプログラミングを行う
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回	デバッグ・結合試験	動作確認を行い、問題点や課題を洗い出し、フィードバックを行う
第 12 回		
第 13 回	最終調整	発表・リリース前の最終調整を行う
第 14 回	発表・リリース	成果物の発表、リリースを行う
第 15 回	振り返り	発表・リリースを振り返り、成功点と課題点を洗い出し、今後の改善策を提案する

教 科 目 名	情報系資格試験対策 B	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡 大平
	Information System Qualification Exam Preparation B	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	2 単位・30 時間

[授業の目的・方針]

情報系ベンダー資格などの各種試験対策を行う。

[履修に必要なこと]

1 年次科目の内容を理解できていること。

[成績評価方法]

模擬試験結果、本番試験結果等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	資格試験の概要を説明し、受験資格と目標を決定
第 2 回	学習計画	スケジュール作成と必要な教材・リソースを選定
第 3 回	基礎学習	基礎問題を解き、解説と基礎知識の確認を行う
第 4 回		
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回	模擬試験 1	基礎問題をベースとした模擬試験を実施
第 8 回	模擬試験 2	
第 9 回	応用学習	応用問題を解き、解説と応用知識の確認を行う
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回	模擬試験 3	応用問題をベースとした模擬試験を実施
第 1 4 回	模擬試験 4	
第 1 5 回	本番試験	本番試験

教 科 目 名	ネットワーク構築	担当教師名	佐渡 新
	Network construction	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

これまで学んできたネットワークの知識を実際に生かせるように、パケットキャプチャで解析することでネットワーク上にデータが流れる仕組みを理解します。また、実際のネットワーク機器の設定を行うことでさらに理解を深めます。

[履修に必要なこと]

コンピュータの仕組み、ネットワークの基礎的な知識は既に習得しているものとする。

[成績評価方法]

実習・期末試験の結果に応じて評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：☒

IT 開発会社の開発部勤務で会得したネットワーク開発業務の経験を活かし、実践的なネットワーク構築について、演習を交えて講義する。

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	パケットキャプチャ	パケットキャプチャの方法を学びます
第 2 回	O S I の 7 階層モデル	ネットワークの 7 階層モデルについて学びます
第 3 回	ネットワークケーブル	ツイストペアケーブルを用いて実際にネットワークケーブルを作成し、配線を確認します。
第 4 回	L 2 ヘッド	L 2 ヘッドに含まれる情報を学びます
第 5 回	L 3 ヘッド	L 3 ヘッドに含まれる情報を学びます。
第 6 回	3 W a y ハンドシェイク	3 W a y ハンドシェイクのやりとりをパケットキャプチャで確認します。
第 7 回	パケットキャプチャ	I C M P の解析
第 8 回	パケットキャプチャ	A R P の解析
第 9 回	パケットキャプチャ	D H C P の解析
第 1 0 回	パケットキャプチャ	H T T P の解析
第 1 1 回	C I S C O ネットワーク機器の設定	基本的なコマンド操作を学びます。
第 1 2 回	リピータ H U B とスイッチング H U B	パケットキャプチャを通じて、リピータ H U B とスイッチング H U B の違いを学びます。
第 1 3 回	ルータの設定 1	異なる 2 つのネットワークを 1 台のルータで接続する方法について学びます

第 1 4 回	ルータの設定 2	異なる 3 つのネットワークを 2 台のルータで静的な接続する方法について学びます
第 1 5 回	ルータの設定 3	異なる 3 つのネットワークを 2 台のルータで動的な接続する方法について学びます

教 科 目 名	システム構築	担当教師名	佐渡 新
	System Architecture	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

実際の業務でサーバとして利用されることの多いLinuxについて学ぶ。

[履修に必要なこと]

コマンドライン重視の操作について学ぼうとする意欲がある事。
触れたことの無いOSに触れ、自ら学ぼうと出来る事。

[成績評価方法]

環境構築の出来具合や成果物・期末試験によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：☒

IT 開発会社の開発部勤務により会得したシステム開発業務の経験を活かし、実践的なシステム構築について演習を交えて講義する。

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	Linuxについて、授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	インストール	Linux OSのインストールを行う。
第 3 回	CLI コマンド	Linuxで利用できるCLI コマンドについて学ぶ。
第 4 回	エディタ	Linuxで利用できるテキストエディタについて学ぶ。
第 5 回	シェル	LinuxのCLI 環境であるシェルの機能について学ぶ。
第 6 回	シェルスクリプト	LinuxのCLI 環境であるシェルで動作するシェルスクリプトについて学ぶ。
第 7 回	GUI	Linuxで利用出来るGUI について学ぶ。
第 8 回	ネットワーク	Linuxのネットワーク機能、サーバ機能、ネットワークトラブルの解決について学ぶ。
第 9 回	セキュリティ	Linuxサーバのセキュリティについて学ぶ。
第 10 回	プロセス	Linuxで動作しているプロセスについて学ぶ。
第 11 回	ユーザ	Linuxのユーザについて学ぶ。

第 1 2 回	グループ	L i n u x のグループについて学ぶ。
第 1 3 回	ランレベル	L i n u x の動作レベルであるランレベルについて学ぶ。
第 1 4 回	ファイルシステム	L i n u x で利用されているファイルシステムについて学ぶ。
第 1 5 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	オブジェクト指向プログラミング	担当教師名	佐藤 幸夫
	Object Oriented Programming	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

オブジェクト指向を中心として、Java プログラムの応用を学ぶ。

[履修に必要なこと]

Java1・Java2 の内容を理解していること。

[成績評価方法]

期末試験の結果と課題演習等を考慮して評価する。

[教科書]

やさしい Java 高橋麻奈 SoftbankCreative

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	クラスの利用	クラスライブラリの利用
第 2 回	クラスの利用	ラッパークラス
第 3 回	例外	例外の基本、例外とクラス、例外の送出
第 4 回	入出力処理	ストリームの仕組み、ファイルの入出力
第 5 回	入出力処理	コマンドライン引数
第 6 回	新しいクラス	継承①
第 7 回	新しいクラス	継承②
第 8 回	新しいクラス	オーバーライド、メンバへのアクセス
第 9 回	インターフェイス	抽象クラス
第 10 回	インターフェイス	インターフェイスのしくみ
第 11 回	スレッド	スレッドの基本、スレッドの操作
第 12 回	スレッド	スレッドの作成方法
第 13 回	スレッド	同期
第 14 回	大きなプログラムの作成	ファイルの分割、パッケージの基本
第 15 回	大きなプログラムの作成	パッケージの利用、インポート

教 科 目 名	専攻ゼミナールC	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar C	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5単位・45時間

[授業の目的・方針]

専攻ゼミナールDと連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

2年次前期の専攻ゼミナールA・専攻ゼミナールBの内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ1回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ2回目	
第 4 回	ゼミ3回目	
第 5 回	ゼミ4回目	
第 6 回	ゼミ5回目	
第 7 回	ゼミ6回目	
第 8 回	ゼミ7回目	
第 9 回	ゼミ8回目	
第 10 回	ゼミ9回目	
第 11 回	ゼミ10回目	
第 12 回	ゼミ11回目	
第 13 回	ゼミ12回目	
第 14 回	ゼミ13回目	
第 15 回	ゼミ14回目	

教 科 目 名	専攻ゼミナールD	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Major seminar D	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

専攻ゼミナール C と連携し、専攻毎にゼミ形式による授業を行い、卒業研究で必要となる知識・技術を目的に学習を行う。

[履修に必要なこと]

2 年次前期の専攻ゼミナール A・専攻ゼミナール B の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・評価方法などの説明
第 2 回	ゼミ 1 回目	ゼミの実施、レポートの作成を行う。
第 3 回	ゼミ 2 回目	
第 4 回	ゼミ 3 回目	
第 5 回	ゼミ 4 回目	
第 6 回	ゼミ 5 回目	
第 7 回	ゼミ 6 回目	
第 8 回	ゼミ 7 回目	
第 9 回	ゼミ 8 回目	
第 1 0 回	ゼミ 9 回目	
第 1 1 回	ゼミ 1 0 回目	
第 1 2 回	ゼミ 1 1 回目	
第 1 3 回	ゼミ 1 2 回目	
第 1 4 回	ゼミ 1 3 回目	
第 1 5 回	ゼミ 1 4 回目	

教 科 目 名	モバイルアプリケーション開発	担当教師名	大平 拓麻
	Mobile Application Development	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

近年急速に普及してきたスマートフォンやタブレット端末のソフト開発を通し、オブジェクト指向によるアプリケーション開発手法を学ぶ。

[履修に必要なこと]

アプリケーションの環境構築・開発・デバッグ等に対する興味があり、自発的に学ぶとする意欲があること。また、サンプルを作成するだけでなく、自分でプログラムを変更し、工夫しようと出来ること。

[成績評価方法]

課題による総合評価とする。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス・環境構築①	授業の内容、成績の付け方等の説明 AndroidStudio のダウンロード・インストール
第 2 回	環境構築②	AndroidStudio の設定、エミュレータの設定
第 3 回	プロジェクトの理解	プロジェクトの作成・構造の理解、ビルドの仕方を学ぶ
第 4 回	レイアウトの理解	ボタンやテキスト等のレイアウト、属性の設定について学ぶ
第 5 回	イベントの理解	イベントの役割・使い方について学ぶ
第 6 回	トーストの理解	トーストの使い方について学ぶ
第 7 回	ウィジェット操作①	入力・出力について学ぶ
第 8 回	ウィジェット操作②	WebView の使い方を学ぶ
第 9 回	データ保存①	ファイルにデータを保存・保存したデータを読み込む方法を学ぶ
第 10 回	データ保存②	SQLite を使ってデータベースに保存できるようにする
第 11 回	データ保存③	SQLite を使ってデータベースからデータを取得できるようにする
第 12 回	アプリ作成実習①	これまでの技術を使いメモアプリを作成する

第 1 3 回	アプリ作成実習②	これまでの技術を使いメモアプリを作成する
第 1 4 回	アプリ作成実習③	これまでの技術を使いメモアプリを作成する
第 1 5 回	アプリ作成実習④	これまでの技術を使いメモアプリを作成する

教 科 目 名	W e bアプリケーション開発	担当教師名	大平 拓麻
	Web Application Development	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

WWW(ホームページ)作成の応用的な能力、技術を養うことを目標とする。これまでのWWW(ホームページ)作成の技術を土台に、Web アプリケーション開発で広く利用されるP PHP についての知識を深める。

[履修に必要なこと]

Web アプリケーションに興味を持ち、自ら学ぼうとする能力と、うまく動作しなかった際にデバッグや原因の探求を楽しもうと出来ること。

[成績評価方法]

各章ごとの課題による総合評価。

[教科書]

初めての PHP
MySQL
JavaScript&CSS 第2版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：☒

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	インストール	P C への P H P 動作環境のインストール
第 2 回	基本構文	文字列・H T M L の表示サンプルの作成
第 3 回	フォーム	フォームの要素・データのチェック等を行うサンプルの作成
第 4 回	変数／定数	変数の定義・使用を行うサンプルの作成
第 5 回	文字列	文字列の結合・変換・出力を行うサンプルの作成
第 6 回	日付	現在日付の取得・日付の計算を行うサンプルの作成
第 7 回	配列	配列の利用を行うサンプルの作成
第 8 回	ファイル	ファイルの読み取り・書き込み・属性の変更等を行うサンプルの作成
第 9 回	各種ファイルとの連携	P D F ・ X M L ・画像ファイル等を利用するサンプルの作成
第 1 0 回	ディレクトリ	ディレクトリの作成等を行うサンプルの作成
第 1 1 回	クラス	クラスの使用に関するサンプルの作成

第 1 2 回	セッション／クッキー	セッション管理・クッキーを利用するサンプルの作成
第 1 3 回	処理制御	処理の終了・エラー処理等のサンプルの作成
第 1 4 回	データベース	データベースを利用するサンプルの作成
第 1 5 回	アプリケーション	アプリケーションサンプルの作成

教 科 目 名	エンベデッドプログラミング	担当教師名	石塚 哲也
	Embedded Programming	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

エンベデッド技術とは産業機器や家電に内蔵して動作させるための技術である。本演習では、その題材としてマインドストームで作成した3輪のロボットに自律制御をさせるためのプログラムの制作から調整、課題解決のための戦略立案を行い、走行会を行う。

[履修に必要なこと]

トライアンドエラーを幾度となく繰り返し、自分のプログラムに落とし込む能力と、メンバーや教員と相談し、自分がプログラムして実現したいことを言語化しようとする努力が必要である。

[成績評価方法]

走行会で自分が担当した部分の走行が単位認定に値するか、授業内で走行や戦略立案を積極的に行っているか等を評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、評価方法等の説明、チーム編成、Mindstorms マシンの構築を行う
第 2 回	環境構築	Toppers 開発環境の構築を行う
第 3 回	環境構築	VSCode、cygwin64 アプリケーションのインストールと設定の構築を行う
第 4 回	プログラム説明	配布されたサンプルプログラムをコンパイル、マシンでプログラムが動作することを確認する。また、サンプルプログラム内のメソッドがどの順番で呼び出されるかをトレースし、プログラムの流れを理解する。
第 5 回	走行会ルール説明	競技ルールを把握し、マシンの仕様から課題解決のための戦略立案を行う
第 6 回	プログラミングと試走①	ライントレース、カラーセンサーによる色検知や十字交差点の検知、PID 制御におけるコーディングとパラメータの調整を行う
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回	プログラミングと試走②	

第 1 1 回		立案した戦略をクリアするために、プログラムをどう組み合わせるか、調整するかを考え、トライアンドエラーを繰り返し走行の精度を向上させる。また、各自のプログラムを結合し、スタートからゴールまでプログラムが動作することを確認する
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回	走行会	期末試験として走行会を行う

教 科 目 名	イベントプランニング	担当教師名	小川 昌宏
	Event Planning	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

学院祭や研修旅行といった学校や学科で行われる実際のイベントで企画・立案と、実行・運営を行います。また、地域で開催されている実際のイベントにプランニングから携わり、PDCA サイクルを体験し問題解決能力を育みます。グループ学習を通してコミュニケーション能力を高め、情報を処理するノウハウや知識を習得することを目標とします。

[履修に必要なこと]

グループ毎の話し合いや情報の収集・整理・発表が中心となります。積極的に参加することが必要とされます。

[成績評価方法]

レポート・発表等により評価する。

[教科書]

プリント配布。

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	学院祭を企画する	企画書作成
第 3 回	学院祭実施準備	実施準備
第 4 回	学院祭実施	イベント実施
第 5 回	発表会準備	視覚的資料作成
第 6 回	学院祭発表会	プレゼンテーション
第 7 回	研修旅行を企画する	企画書作成
第 8 回	研修旅行実施準備	実施準備
第 9 回	研修旅行実施	イベント実施
第 10 回	発表会準備	視覚的資料作成
第 11 回	研修旅行発表会	プレゼンテーション
第 12 回	地域の会議参画	地域の企画会議に参画
第 13 回	地域イベント実施準備	地域イベント実施準備に参画
第 14 回	地域イベント実施	地域イベント実施運営に参画
第 15 回	反省会	反省会に参画

教 科 目 名	卒業研究	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡
	Undergraduate Research	方法・必選	演習・必修
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	3単位・90時間

[授業の目的・方針]

これまで学んできた技術あるいは、養ってきた能力を土台に、学生・チーム自身が設定したテーマ・課題を解決する能動的資質を培うことを目標とする。在学2年間の集大成として、学生・チーム自身でテーマ・課題の設定を行い、これまでの技術を基に、みずから考え、試行し、また、必要な技術を習得して、問題の解決を行い作品として完成させる。

[履修に必要なこと]

いままで勉強してきたファイル類・実習結果等を、必要に応じて利用できるようなっていること。

[成績評価方法]

概要発表・中間発表・完成発表と日常の取り組み状況による総合評価。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：☒

株式会社ワンオールシステム・株式会社 LIC との連携により、企業課題の取り組み、また最終的な成果物に対する評価を得ている。

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	基本計画	班編成、テーマ決定
第 2 回	要件定義	現状分析とシステムへの要求定義・スコープマネジメント
第 3 回	外部設計	サブシステム定義・論理データ設計・画面／帳票設計・コード設計
第 4 回	内部設計	機能分割・機能の構造化（プログラム一覧）・物理データ設計
第 5 回	プログラム設計1	プログラム構造化（モジュール階層構造図）・テストデータ設計
第 6 回	中間発表1	設計完了時点でどのような研究をするか発表する。
第 7 回	プログラミング1	プログラムの作成を行う。
第 8 回	プログラミング2	プログラムの作成を行う。
第 9 回	テスト	単体テスト・結合テスト・システムテスト・運用テスト

第 1 0 回	中間発表 2	作成した成果物について発表する。
第 1 1 回	一斉レビュー・テスト	作成した成果物についてレビューとテストを行う。
第 1 2 回	検収ドキュメント作成	他のグループに作成した成果物を評価してもらうためのドキュメントを作成する。
第 1 3 回	検収	他のグループに作成した成果物を評価してもらう。
第 1 4 回	完成発表	作成・研究したものについて発表を行う。
第 1 5 回	レポート提出	作成・研究したものについてレポートを作成し提出する。

教 科 目 名	インターンシップ 2	担当教師名	石塚 哲也
	Internship 2	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	2単位・60時間

[授業の目的・方針]

実際の職場での業務を行うことで、実際の職場の実体験として学習する。職場での業務と日頃学んで来た知識の違いを体験し、学んできた内容をどのように生かして行くのかを応用する力を鍛えることを目的とする。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

受け入れ先の評価・レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査します
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習します
第 4 回	インターンシップ	職場で実習をします
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備を行います
第 15 回	報告会	報告会を行います

教 科 目 名	職場見学	担当教師名	石塚 哲也
	Visit to Workplace	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

実際の職場の業務を見学することで、これまで学習してきた内容との違いを確認する。
また、通常の授業では体験できない内容を見学することで、学習の目的意識の向上を目指す。

[履修に必要なこと]

社会人としてのマナーを身につけている事。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールの確認等
第 2 回	概要説明	実習先の概要について調査します
第 3 回	心構え	実習先での行動の注意点について学習します
第 4 回	職場見学	実際の職場を見学します
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回		
第 12 回		
第 13 回		
第 14 回	報告会準備	報告の準備を行います
第 15 回	報告会	報告会を行います

教 科 目 名	PBL 演習 C	担当教師名	引地 小川 佐藤 石塚 佐渡 大平
	Project Based Learning Practice C	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

企業連携やコンテスト等を PBL 形式で取り組み、培ってきた IT の知識・技術の向上を目指す。

[履修に必要なこと]

いままで勉強してきたファイル類・実習結果等を、必要に応じて利用できるようなっていること。

[成績評価方法]

レポート等で評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	導入・基本計画	企業連携・コンテストの概要説明、目標設定、チーム編成、全体スケジュールの作成
第 2 回	基礎知識習得	コンテストに関する基礎知識の習得を行う
第 3 回	開発環境整備	開発ツールのインストール、初期設定を行う
第 4 回	外部設計	企業連携・コンテストの要求仕様を整理し、システム全体の外部設計を行う
第 5 回		
第 6 回	内部設計	外部設計を基にモジュール設計やインターフェース等の内部設計を行う
第 7 回		
第 8 回	プログラミング	内部設計を基に各モジュールのプログラミングを行う
第 9 回		
第 10 回		
第 11 回	デバッグ・結合試験	動作確認を行い、問題点や課題を洗い出し、フィードバックを行う
第 12 回		
第 13 回	最終調整	発表・リリース前の最終調整を行う
第 14 回	発表・リリース	成果物の発表、リリースを行う
第 15 回	振り返り	発表・リリースを振り返り、成功点と課題点を洗い出し、今後の改善策を提案する

教 科 目 名	ビジネス知識	担当教師名	芝 亜砂美
	Business Knowledge	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

クライアント・上司・先輩方などの関係者と仕事を共にするビジネス・事務スタッフとして重要な「接遇マナー」、その方々とスムーズな人間関係を構築するために必要な「基本的マナー」等々を講義・実習で習得することを目的とする。

[履修に必要なこと]

講義以外でも実問題に触れておくこと。

[成績評価方法]

授業態度・提出物・期末テストによる総合評価。

[教科書]

ビジネスマナー 青木テル著 早稲田教育出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	接遇マナー I	美しいお辞儀の仕方について
第 2 回	言葉遣いマナー I	敬語の三種類その1
第 3 回	〃 II	〃 その2
第 4 回	〃 III	〃 その3
第 5 回	〃 IV	〃 その4
第 6 回	電話応対マナー I	電話実習その1
第 7 回	〃 II	〃 その2
第 8 回	〃 III	〃 その3
第 9 回	接遇マナー II	席順・エレベーターのマナー等
第 10 回	接遇マナー III	食事のマナー・贈答のマナー
第 11 回	交際マナー I	慶事のマナーその1
第 12 回	〃 II	〃 その2
第 13 回	〃 III	弔事のマナーその1
第 14 回	〃 IV	〃 その2
第 15 回	その他	ビジネス文書・事務用品等

教 科 目 名	ビジネス文書演習	担当教師名	佐藤 誠
	Business Document Skills	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

各ワープロソフトの機能修得及び基本的な商業事務通信文、罫線及び基本的な表の作成方法の修得を目標とする。授業の方針は、講義よりも実践的に技術指導に徹し、その中で必要な講義を行う。実技中心により、各々の弱点や欠点、理解できていない箇所を本人が把握できるように、必ず作成した作品を提出させ、教師が校正し理解させる。

[履修に必要なこと]

テキストには、丁寧な解説は無いので、各自が必要事項をテキストに記入する。

[成績評価方法]

中間試験・期末試験・提出物を考慮し、評価する。

[教科書]

工学院オリジナルテキスト

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	文書情報の重要性	ワープロに必要な操作をはじめ、基本的な通信文を作るために必要な文書の書式、文書構成、余白の取り方、用紙サイズの決め方を実技により理解させる。 ワープロに係わる技術的常識を講義及び実技の中で説明、理解させる。
第 2 回	文書の種類	
第 3 回	文書の構成	
第 4 回	用紙サイズ及び余白	
第 5 回	基本的なキータッチ練習	
第 6 回	基本的通信文の作成	
第 7 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 8 回	中間試験	筆記試験
第 9 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 10 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 11 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 12 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 13 回	商業通信文の作成	各自に作成させ、教師が校正指導する。
第 14 回	罫線及び表作成	罫線の使い方、表の作成方法
第 15 回	表入り通信文の作成	通信文中に表が含まれているものの作成方法

教 科 目 名	O f f i c e 演 習 1	担当教師名	大野 賢二
	Microsoft Office Practice 1	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

1 年前期のパソコン演習をもとに、より進んだ使い方を習得する。問題に合致した機能を利用し完成できるようにするとともに、データ処理の大まかな流れを把握できるようにする。

[履修に必要なこと]

表計算ソフトについて基本的な操作ができること

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

よくわかるマスター MOS Excel 365&2019 対策テキスト&問題集

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、利用ソフトウェアのインストール
第 2 回	ワークシートやブックの管理	ブック、ワークシートの作成、カスタマイズの手法を学習する。
第 3 回	セルやセル範囲のデータ管理	セルへのデータ入力、セルの書式設定の手法を学習する。
第 4 回	テーブルとテーブルのデータの管理	テーブルの作成、変更、書式設定、データ抽出の手法を学習する。
第 5 回		
第 6 回	数式や関数を使用した演算の実行	絶対参照、差相対参照について理解し、関数を利用した演算手法について理解する。
第 7 回		
第 8 回	グラフの管理	グラフの作成、変更、書式設定の手法を学習する。
第 9 回		
第 1 0 回	模擬試験 1 回目	模擬試験 1 回目
第 1 1 回	模擬試験 2 回目	模擬試験 2 回目
第 1 2 回	模擬試験 3 回目	模擬試験 3 回目
第 1 3 回	模擬試験 4 回目	模擬試験 4 回目
第 1 4 回	模擬試験 5 回目	模擬試験 5 回目
第 1 5 回	受験	Microsoft Office Specialist Excel を受験する。

教 科 目 名	ビジネス・コミュニケーション論	担当教師名	小川 昌宏
	Business Communication Theory	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

〔授業の目的・方針〕

対人コミュニケーションの基礎から、現代的な対話技法までを体系的に学びます。相手（人間や AI）に的確に意図を伝え、望む回答や成果を引き出すための「論理的思考力」と「言語化能力」の習得を目的とします。コミュニケーションの本質を理解し、主体的に情報を発信・制御できる能力を養います。

〔履修に必要なこと〕

〔成績評価方法〕

期末レポート・演習課題

〔教科書〕

特定の教科書は使用せず、毎回配布するプリントおよびスライド資料を中心に進めます。

〔参考書〕

〔実務経験・教育内容〕

〔授業計画〕

回	項 目	内 容
第 1 回	オリエンテーション	現代社会におけるコミュニケーションの変容
第 2 回	コミュニケーションの本質	伝わるとは何か？「意図」と「解釈」のギャップを理解する
第 3 回	コミュニケーションの本質	自分も相手も尊重する自己主張と、心理的安全性の構築
第 4 回	生成 AI（LLM）の基礎	AI との対話における「言葉」の重みと仕組み
第 5 回	プロンプトエンジニアリング基礎	AI への指示出しの基本原則（具体性・背景・役割）
第 6 回		
第 7 回	思考の外部化と壁打ち	AI を思考のパートナーとして活用する対話技法
第 8 回	構造化プロンプト	複雑なタスクを分解し、AI の性能を最大化する設計
第 9 回	ビジネス文書と校正	報告書・メール作成における人間と AI の役割分担
第 10 回	企画とプレゼンテーション	聴衆の反応を引き出す「問い」の立て方
第 11 回	危機管理とリテラシー	AI のハルシネーションと情報の真偽確認
第 12 回	総合演習	特定のビジネス課題に対する AI 活用・提案の実行
第 13 回	総合演習	特定のビジネス課題に対する AI 活用・提案の実行
第 14 回	総合演習	特定のビジネス課題に対する AI 活用・提案の実行
第 15 回	総括	

教 科 目 名	簿記原理	担当教師名	橘井 健佑
	Bookkeeping Principle	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

日商簿記3級の合格を目標とし、複式簿記の基本的な知識と技術を体系的に学ぶことが授業の目的である。

簿記に必要な基礎概念および会計処理の方法について、教科書を利用して学習する。

単元ごとに小テストを行い、理解度の確認を行う。

[履修に必要なこと]

一連の会計処理の方法を学ぶには各単元の知識が必要となり、日々の復習が必要となる。

授業には電卓が必要となる。

[成績評価方法]

日商簿記3級の受験結果と期末試験により評価する。

[教科書]

日商簿記3級光速マスターテキスト LEC

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	簿記の基本	財務諸表・会計期間・貸借対照表・損益計算書とは
第 2 回	商品売買	三分法、掛け取引、商品の返品、商品売買の費用
第 3 回	現金・預金	現金、現金過不足、預金、小口現金
第 4 回	商品売買と債権・債務	手形取引、前払／前受金、電子記録債権・債務
第 5 回	その他の債権・債務	貸付／借入金、未払／未収入金、仮払／仮受金
第 6 回	税金	租税公課、消費税、法人税等
第 7 回	その他の取引	有形固定資産、消耗品費、差入保証金、法定福利費
第 8 回	試算表	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
第 9 回	決算整理	決算とは、貯蔵品、当座借越、現金過不足、棚卸
第 10 回		貸倒れ、前払／前受、未払／未収、減価償却
第 11 回	精算表	精算表とは、決算整理仕訳、修正記入、締切り
第 12 回	財務諸表	決算整理後残高試算表、損益計算書、貸借対照表
第 13 回	株式会社	株式会社とは、剰余金の処分、剰余金の配当
第 14 回	主要簿・補助簿・伝票	仕訳帳、総勘定元帳、補助記入帳、補助元帳、伝票
第 15 回	総復習・期末試験	総復習、期末試験

教 科 目 名	ソリューション開発演習	担当教師名	小川 昌宏
	Solution Development Exercise	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

〔授業の目的・方針〕

身近な課題を解決するための「デジタルな仕組み」を素早く構築する手法を学びます。コードを書くこと自体を目的とせず、業務や生活の中にある不便をどのようにデータとシステムで解消するかという「ソリューション設計能力」を養います。

〔履修に必要なこと〕

基本的な PC 操作/日常的な問題意識

〔成績評価方法〕

演習課題・最終課題

〔教科書〕

〔参考書〕

〔実務経験・教育内容〕

〔授業計画〕

回	項 目	内 容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ「作れる」ことが武器になるのか？
第 2 回	ツールの基本操作	ツールの基本操作
第 3 回	ツールの基本操作	ツールの基本操作
第 4 回	業務フローの理解	業務の流れをフローチャートで可視化する
第 5 回	入力と表示の最適化	使う人が迷わない画面（フォーム）のレイアウト設計
第 6 回	データの関連付け	複数の情報を紐付け、情報の重複をなくす「リレーショナル」の概念
第 7 回	プロセスの自動化	承認や確認といった「仕事の流れ（ワークフロー）」を組み込む
第 8 回	データの可視化	蓄積されたデータをグラフ化し、状況を瞬時に判断する仕組み
第 9 回	中間振り返り・発表	作成した基本アプリのデモンストレーション
第 10 回	外部サービスとの連携	API の概念：異なるツール同士を「つなぐ」メリットを知る
第 11 回	外部サービスとの連携	入力された情報と外部サービスとの連携
第 12 回	プロジェクト企画	解決したい課題の選定と、ソリューション設計図作成
第 13 回	プロジェクト構築	ツールを駆使した独自の仕組みの実装
第 14 回	プロジェクト構築	ツールを駆使した独自の仕組みの実装
第 15 回	発表会	作成した仕組みの解説と、期待される課題解決効果のプレゼン

教 科 目 名	O f f i c e 演 習 2	担当教師名	大野 賢二
	Microsoft Office Practice 2	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

1 年前期のパソコン演習をもとに、より進んだ使い方を習得する。問題に合致した機能を利用し完成できるようにするとともに、文章作成方法を理解し活用できるようにする。

[履修に必要なこと]

文章作成ソフトについて基本的な操作ができること

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

よくわかるマスター MOS Word 365&2019 対策テキスト&問題集

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明、利用ソフトウェアのインストール
第 2 回	文章	文章の作成手法、保存、共有、検査といった基本的な操作について学習する。
第 3 回		
第 4 回	書式設定	文章の段落、目次、セクションの挿入といった書式に係る設定手法について学習する。
第 5 回	表	表の作成、変更する手法について学習する。
第 6 回	参照	文書と目次、図表への参照する手法について学習する。
第 7 回	図	図の挿入、図の書式設定の手法について学習する。
第 8 回	共同編集	共同編集の手法について学習する。
第 9 回	変更履歴	変更履歴の記録、閲覧、承諾の手法について学習する。
第 10 回	模擬試験 1 回目	模擬試験 1 回目
第 11 回	模擬試験 2 回目	模擬試験 2 回目
第 12 回	模擬試験 3 回目	模擬試験 3 回目
第 13 回	模擬試験 4 回目	模擬試験 4 回目
第 14 回	模擬試験 5 回目	模擬試験 5 回目
第 15 回	受験	Microsoft Office Specialist Word を受験する。

教 科 目 名	O f f i c e 演 習 3	担当教師名	大野 賢二
	Microsoft Office Practice 3	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

1 年前期のパソコン演習をもとに、より進んだ使い方を習得する。問題に合致した機能を利用し完成できるようにするとともに、データ処理の大まかな流れを把握できるようにする。

[履修に必要なこと]

文章作成ソフトについて基本的な操作ができること

[成績評価方法]

中間試験・期末試験等の結果とレポートを考慮して評価する。

[教科書]

プリントを適宜配布

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	データベースの基本	データベースの基本的な考え方
第 2 回	データベースの基本操作	データベースソフトの基本的な操作
第 3 回	テーブルの作成方法	リレーショナルを考慮して作成
第 4 回	テーブルの操作方法	データベースとしての基本的な操作
第 5 回	クエリーの作成方法 1	選択・演算クエリーの作成
第 6 回	クエリーの作成方法 2	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 7 回	フォームの作成方法	入力フォーム作成し整える
第 8 回	総合演習 1	レポートの作成と提出
第 9 回	データベースの基本設計	基本的な考え方と方針の作成
第 1 0 回	テーブルの作成	リレーショナルを考慮して作成
第 1 1 回	フォームの作成	サブフォームの利用
第 1 2 回	クエリーの作成	選択・演算クエリーの作成
第 1 3 回	レポートの作成	パラメータ・アクションクエリーの作成
第 1 4 回	マクロの利用	作業のマクロ化
第 1 5 回	総合課題 2	レポートの作成と提出

教 科 目 名	応用簿記	担当教師名	橘井 健佑
	Applied Bookkeeping	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

11月に実施される日商簿記3級の合格を目標とする。

日商簿記3級の知識と技術をさらに発展させ、複式簿記の理解度を深めることが授業の目的である。

各単元の模擬問題を解きながら、より実践的な学習を行う。

日商簿記2級の受験も視野に入れながら簿記の知識と技術を深めていく。

[履修に必要なこと]

簿記原理で学んだ複式簿記の基本的な知識と技能が必要となる。

授業には電卓が必要となる。

[成績評価方法]

日商簿記3級の受験結果と期末試験により評価する。

[教科書]

日商簿記3級光速マスターテキスト LEC

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	総合模擬問題	総合模擬問題
第 2 回		
第 3 回		
第 4 回	仕訳	現金実査
第 5 回		貯蔵品の棚卸
第 6 回		証ひょう
第 7 回	勘定の記入	支払／前払地代、受取／未収利息、繰越商品
第 8 回	補助簿	商品有高帳、固定資産台帳、売掛金元帳
第 9 回	伝票会計	3伝票制、仕訳日計表
第 10 回	試算表	残高試算表、決算整理後残高試算表
第 11 回	精算表	精算表の作成
第 12 回	損益計算書と貸借対照表	損益計算書・貸借対照表の作成
第 13 回	総合模擬問題	総合模擬問題
第 14 回		
第 15 回	総復習・期末試験	総復習、期末試験

教 科 目 名	プログラミング演習	担当教師名	大野 賢二
	Programming Exercises	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

ExcelVBA の開発環境を使用し、簡単なゲームや実務的なプログラミングを演習することで、プログラムの目的や有用性、組み上げる楽しさを学ぶ。

[履修に必要なこと]

論理的思考回路。

[成績評価方法]

課題提出や中間試験・期末試験の結果を考慮して評価する。

[教科書]

配布プリント

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	スケジュールと基本設定
第 2 回	プログラムの基礎	変数、式、演算子
第 3 回		分岐命令
第 4 回		繰り返し処理
第 5 回		
第 6 回	ボートレース作成	ボートの動かし方、基本設計
第 7 回		ボートを動かす、乱数発生
第 8 回		ゴール判定、賞金計算
第 9 回	ダンジョン作成	ダンジョンの考え方、キャラを自由に動かす
第 10 回		イベントの判定、多分岐処理
第 11 回		サブプログラムと引数
第 12 回		裏画面と表画面
第 13 回	カレンダー作成	仕組の説明と手順確認
第 14 回		体裁を整えるプログラム
第 15 回		内容を入れ込むプログラム

教 科 目 名	プレゼンテーション	担当教師名	小川 昌宏
	Presentation	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1.5 単位・45 時間

[授業の目的・方針]

卒業旅行を題材として、「企画」・「立案」・「コンペティション」という手法を用いて、プレゼンテーション資料の作成から発表までの一連の流れを学習します。

[履修に必要なこと]

[成績評価方法]

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

* 実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	チーム編成	チームを編成する
第 3 回	テーマ決定	行き先やテーマ・発表内容を決定する
第 4 回	素材収集	プレゼンテーションに必要な参考資料（写真、アンケート結果、ニュース記事等）を収集する
第 5 回		
第 6 回		
第 7 回	構成作成	要点を絞り、どの順序で話を進めるのか、ストーリーを考える
第 8 回		
第 9 回	資料作成	パワーポイントでの資料作成、または展示物、配布物の作成
第 10 回		
第 11 回	リハーサル	時間を計って発表の練習 会場や機器の確認をする
第 12 回		
第 13 回	コンペティション	プレゼンテーションを実施し投票する
第 14 回	振り返り	内容は伝わったか、聞き手から反応を得る
第 15 回	レポート作成・提出	資料をまとめレポートとして提出する

情 報 シ ス テ ム 科

大学編入コース
専 門 科 目

教 科 目 名	物理 A	担当教師名	大立目 寛明
	Physics A	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

力学を中心とした基礎物理について学ぶ。基本的な運動を表す数式を理解し、諸条件を基に問題を解くことができることを目標とする。

[履修に必要なこと]

高校1年程度の物理学の知識があること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の物理 和達三樹 森北出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	直線運動	速度と加速度、等速直線運動
第 2 回	直線運動	等加速度直線運動
第 3 回	運動の法則	運動の第1法則
第 4 回	運動の法則	運動の第2法則
第 5 回	運動の法則	運動の第3法則
第 6 回	いろいろな直線運動	運動方程式の作り方
第 7 回	いろいろな直線運動	自由落下運動、投げ上げ運動
第 8 回	運動量	力積と運動量
第 9 回	運動量	運動量保存の法則
第 10 回	力学的エネルギー	仕事の大きさ、運動エネルギー、位置エネルギー
第 11 回	力学的エネルギー	力学的エネルギー保存の法則
第 12 回	平面・空間での運動	ベクトルとスカラー
第 13 回	平面・空間での運動	運動方程式
第 14 回	剛体や流体に働く力	剛体に働く力
第 15 回	剛体や流体に働く力	圧力

教 科 目 名	TOE I C 英語演習 I	担当教師名	持富 勇一
	TOEIC English Exercise 1	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・前期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

TOEIC 試験に向けた基礎的な英語能力の習得を目的に学習する。

[履修に必要なこと]

高校3年程度の英語力があること。

[成績評価方法]

期末試験の結果を総合的に評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Part 1 対策	写真描写問題について練習問題を通して対策を行う。
第 2 回		
第 3 回	Part 2 対策	応答問題について練習問題を通して対策を行う。
第 4 回		
第 5 回	Part 3 対策	会話問題について練習問題を通して対策を行う。
第 6 回		
第 7 回	Part 4 対策	説明文問題について練習問題を通して対策を行う。
第 8 回		
第 9 回	Part 5 対策	短文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 10 回		
第 11 回	Part 6 対策	長文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 12 回		
第 13 回	Part 7 対策	読解問題について練習問題を通して対策を行う。
第 14 回		
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	物理B	担当教師名	大立目 寛明
	Physics B	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	2単位・30時間

[授業の目的・方針]

熱力中心として波・電磁気等の基礎物理について幅広く学ぶ。熱力学のエネルギー保存則・波の性質・電磁気学の基礎の習得を目指す。

[履修に必要なこと]

物理 A の内容を理解していること。

[成績評価方法]

レポート課題を中心として総合的に評価する。

[教科書]

高専の物理 和達三樹 森北出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	温度と熱	なぜ物質に温度があるのか
第 2 回	熱量	熱量とは何か
第 3 回	気体の分子運動	温度と気体分子の関係
第 4 回	エネルギー保存の法則	熱力学の第 1 法則・第 2 法則
第 5 回	直線上を伝わる波	波長、振動数、速さ
第 6 回	平面や空間を伝わる波	ホイヘンスの原理
第 7 回	音波	音速、ドップラー効果
第 8 回	光波	光の性質
第 9 回	光学機器	平面鏡とレンズ
第 10 回	静電界	電界とは
第 11 回	直流	電圧、電流、直流回路
第 12 回	電流と磁界	電流による磁界
第 13 回	電磁誘導と交流	電磁誘導
第 14 回	電子と光	光の粒子性と波動性
第 15 回	原子と原子核	原子の構造、放射線

教 科 目 名	TOE I C 英語演習Ⅱ	担当教師名	持富 勇一
	TOEIC English Exercise 2	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

TOEIC 試験に向けた基礎的な英語能力の習得を目的に学習する。

[履修に必要なこと]

1 年前期の TOEIC 英語演習Ⅰの内容を理解していること。

[成績評価方法]

中間試験・期末試験の結果を総合的に評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	Part 1 対策	写真描写問題について練習問題を通して対策を行う。
第 2 回		
第 3 回	Part 2 対策	応答問題について練習問題を通して対策を行う。
第 4 回		
第 5 回	Part 3 対策	会話問題について練習問題を通して対策を行う。
第 6 回		
第 7 回	Part 4 対策	説明文問題について練習問題を通して対策を行う。
第 8 回		
第 9 回	Part 5 対策	短文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 10 回		
第 11 回	Part 6 対策	長文穴埋め問題について練習問題を通して対策を行う。
第 12 回		
第 13 回	Part 7 対策	読解問題について練習問題を通して対策を行う。
第 14 回		
第 15 回	期末試験	期末試験

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナールA	担当教師名	引地 政征
	Seminar A for the specialized subjects of University	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・1年・後期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学専門科目に対応するために各分野の基礎的な部分の習得を目標にする。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。特に高校卒業程度の数学・英語の知識は重要である。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法や学習の目的など
第 2 回	目標設定	将来受験する予定の大学の受験科目等を調査し、何を勉強するべきかを設定する。
第 3 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 4 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 7 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 10 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 13 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。

教 科 目 名	オペレーションズ・リサーチ	担当教師名	引地 政征
	Operations Research	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

オペレーションズ・リサーチ(OR)とは意思決定するための科学的な手法の体系である。
本科目では日程計画・待ち行列・在庫管理・線形計画法について数学的解法を学びます。

[履修に必要なこと]

高校程度の数学の知識は必須である。

[成績評価方法]

期末試験・レポート提出等によって評価する。

[教科書]

OR へのステップ 長畑秀和 共立出版

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	日程計画 1	アローダイアグラム
第 2 回	日程計画 2	PERT
第 3 回	在庫管理 1	在庫管理の最適化、経済発注量公式
第 4 回	在庫管理 2	発注点法、定期発注法
第 5 回	待ち行列 1	到着分布とサービス分布
第 6 回	待ち行列 2	単一窓口と複数窓口
第 7 回	線形計画法 1	決定変数、目的関数、制約条件
第 8 回	線形計画法 2	グラフによる解法、計算による解法
第 9 回	線形計画法 3	輸送問題
第 10 回	ゲーム理論 1	純粋戦略
第 11 回	ゲーム理論 2	混合戦略
第 12 回	ゲーム理論 3	ベイズ解
第 13 回	ゲーム理論 4	ナッシュ均衡点
第 14 回	階層化意思決定法 1	階層化意思決定とは
第 15 回	階層化意思決定法 2	ウェイト計算法

教 科 目 名	統計学	担当教師名	本田 薫
	Statistics	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

本学科の卒業研究では、統計学の方法を使用することがある。この授業では、統計学、特に、推測統計学の基本的な内容を理解することを目的とする。本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は、統計学に関する基礎的な理論を習得することを目的とする。

[履修に必要なこと]

授業では電卓・定規を使用することがある。指示があった際には必ず用意して講義を受けること。

[成績評価方法]

期末試験・課題等により評価する。

[教科書]

マンガでわかる統計学 OHM

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	ガイダンス	今後のスケジュール、方針、評価等
第 2 回	確率	標本空間、事象、確率
第 3 回		順列、組み合わせとその応用
第 4 回		独立な事象、条件付確率、ベイズの定理
第 5 回	確率変数と確率変数の分布	離散確率分布と確率関数
第 6 回		連続確率分布と確率密度関数
第 7 回		期待値の演算
第 8 回		2 項分布と正規分布
第 9 回		2 次元同時確率分布、チェビシェフの不等式と大数の法則
第 10 回		標本分布
第 11 回	標本分布	無作為抽出と無作為標本、標本平均と標本分散の分布
第 12 回		中心極限定理とその応用
第 13 回	推定	平均の推定
第 14 回		分散の推定
第 15 回	期末試験	仮説検定

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナールB	担当教師名	引地 政征
	Seminar B for the specialized subjects of University	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学専門科目に対応するために各分野の基礎的な部分の習得を目標にする。大学専門科目ゼミナールAで基礎的な部分は修得したものとして、より発展的なゼミナールを実施する。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。大学専門科目ゼミナールAで基礎的な知識は修得していることが望ましい。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 2 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 3 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 4 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 7 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 10 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 13 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する

教 科 目 名	大学専門科目ゼミナールC	担当教師名	引地 政征
	Seminar C for the specialized subjects of University	方法・必選	講義・選択
科・年・期	情報システム科・2年・前期	単位・時間	3単位・45時間

[授業の目的・方針]

大学編入試験における必要な対策を各自の目標を明確にしながら少人数のゼミナール形式で行う。大学編入試験が早期に実施される学校はこの期間内に行われる。編入試験直前にあたるため、編入試験に直結した内容のゼミナールを行う。

[履修に必要なこと]

大学編入するに十分な基礎知識を有していること。大学専門科目ゼミナール A・B で基礎的な知識は修得していることが望ましい。

[成績評価方法]

レポート提出等によって評価する。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	全体計画設計	それぞれの目標に到達するための具体的な方策について期間を区切って定め、目標達成が客観的にわかる指標を設定する
第 2 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 3 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 4 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 5 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 6 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 7 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 8 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 9 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 10 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 11 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 12 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 13 回	評価と改善計画	各自の結果を評価して、改善計画を立てる。
第 14 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する
第 15 回	ゼミナール実施	各自計画に沿って実施する

教 科 目 名	体育 1	担当教師名	三谷 直人
	Physical education 1	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

さまざまなスポーツを通じて、基礎体力の養成と、筋力の向上を図り、基本的な種目のルールや技術の習得を目的とする。

[履修に必要なこと]

運動しやすい服装

[成績評価方法]

定期試験・授業姿勢を総合的に評価。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	はじめに	授業の進め方
第 2 回	バスケットボール	ルールの理解
第 3 回	〃	基本技術の習得
第 4 回	〃	戦術の理解
第 5 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 6 回	キンボール	ニュースポーツを知る
第 7 回	〃	ルールを理解
第 8 回	バレーボール	ルールの理解
第 9 回	〃	基本技術の習得
第 10 回	〃	戦術の理解
第 11 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 12 回	バドミントン	ルールの理解
第 13 回	〃	基本技術の習得
第 14 回	〃	戦術の理解
第 15 回	〃	試合を通じてチームワークを高める

教 科 目 名	体育 2	担当教師名	三谷 直人
	Physical education 1	方法・必選	演習・選択
科・年・期	情報システム科・2年・後期	単位・時間	1単位・30時間

[授業の目的・方針]

さまざまなスポーツを通じて、基礎体力の養成と、筋力の向上を図り、基本的な種目のルールや技術の習得を目的とする。

[履修に必要なこと]

運動しやすい服装

[成績評価方法]

定期試験・授業姿勢を総合的に評価。

[教科書]

[参考書]

[実務経験・教育内容]

*実務経験のある教員による授業科目：□

[授業計画]

回	項 目	内 容
第 1 回	はじめに	授業の進め方
第 2 回	サッカー	ルールの理解
第 3 回	〃	基本技術の習得
第 4 回	〃	戦術の理解
第 5 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 6 回	インディアカ	ニュースポーツを知る
第 7 回	〃	ルールを理解
第 8 回	バスケットボール	ルールの理解
第 9 回	〃	基本技術の習得
第 10 回	〃	戦術の理解
第 11 回	〃	試合を通じてチームワークを高める
第 12 回	バレーボール	ルールの理解
第 13 回	〃	基本技術の習得
第 14 回	〃	戦術の理解
第 15 回	〃	試合を通じてチームワークを高める